特1—278

本草圖譜

本草圖譜 巻之廿一目録

毒草類

大黄（漢種） 二
土大黄（からすのあぶら） 五
一種（紅花） 七
一種 八
一種（尖葉の物） 九
狼牙（みつば） 十

レ。ムパルマチユム（林婦斯） 四
商陸 六
狼毒（マンダラゴラ）
防葵
一種（短葉の物）
藺茹（漢種） 十一

一種　のぐろ　十二
一種　圓葉の物　十三
一種　まくとび　十四
一種　伊吹山の産　大戟　十五
一種　細葉　十六
澤漆　十七
一種　ムさ大戟　甘遂　十八
一種　くぎ〳〵　十九
一種　荷蘭の圖　續隨子　廿
狼若　そーまどろ　廿一
草蘭茄　廿二
紀州の産　大戟　廿三
一種　紫莖の物　廿四
蓖麻　青莖の物　廿五
博落廻　さゝきムさ　廿六
一種　廿七
雲實　さるとうつぎら　廿八

潜園隠藏

本草圖譜卷之廿一

毒草類　一廿一種

東都　岩崎常正　著

大黄 おゝ〳〵

本草和名 延喜式 羊蹄の一名よしと訓す形状羊蹄に似て大なるをいゝ然れども漢種の大黄をさしておゝ〳〵と云ふ非さるべし

レヤムシンボルレ 朝鮮
ラバルベル 荷蘭
ラバルバリュム 羅甸

享保年中漢種渡り来りて培養ふ春月宿根より生ず葉ハ桐の似て厚し夏月圓莖を抽て高さ四五尺莖紫色を帯ぶ梢を分形羊蹄なるも似て小碎の黄緑花を開き後三稜ある實を結ぶ形蕎麥の如し花莖を去べし然らざれば根軽虚多し三月頃蘆頭なかけて切裂て栽へし根の形萵苣の似て皮赤黒色肉黄赤色ありて黄き数年を経るもの十月の堀採切片ゝ大金を以て蒸すこと三五時日ふ乾し中頃火の上の尾を置上ゝ軟焼て呑ふ晒し数年貯ハゝ渋味去て能腸胃を利す

漢種大黄ハ葉頭の訛ゝ奏隴来者謂之南大黄番之内生青葉似蓖麻おゝ大者如扇根如芋子大者如盌長三尺許中亦有青紅似蕎麥花者莖青紫色形如竹と云是ゝ葉頭訛ところの蜀大黄を薬舗少て生古大黄又そぎ大黄と呼又縄ゐて弁眼乾と云つゝきて大黄と呼ぶ

大黄（だいわう）

同

レ。ムパルマキユム　林娜斯

宇田川榕按ずるに林娜斯の書にレ。ウム羅甸ラバルベル荷蘭第三種ハレ。ウ、ハルマキユムといへバルマキユムとハ掌の状の義歟そ葉の形掌の如きが故に名づく或云支那の長城驒靼と堺を接する處に産す莖高さ八尺許穂をなして肉色の花を開く莖長さ二尺許莖ハ緑色にて紫の斑あるあり寺あり葉ハ三ツ或ハ五ツゆ切て老れあり根ハ塊をなして枝あり甘き粘液あり下利の効常の大黄と同しと云

一種

土大黄　蘘頌

からさのあぶら　京貴布称

朝鮮大黄　信州大黄

信州より出つ春宿根より生ル形状酸模に似て肥大葉のなく四五寸長さ二尺餘莖紅色花實を酸模と同し根ハ唐大黄に似て長く赤黄色黄汁あり味甚だ苦く微辛し是亦瀉利の効あり

土大黄

商陸(さうりく)

一種 紅花(こうくわ)の物

狼毒

マンダラゴラ

宇田川榕菴按ずるに荷蘭トニースの説に雄雌二種あり雄の方ハ葉潤く白花を開く

物印忙載處の圖

實ハ林檎ノ如クニシテ小く黄色味甘く香氣あり根長く大ニシテ二ツ又三ツ又に裂たり雌の方ハ葉稍く深緑色なり此物麻酔する毒あり根の皮を用ひ實ハ毒弱し根ハ下利ふく服ときハ毒あらわれて死す少し服さするときハ死體を下し月經を通ずと云常正按るに此物形狀狼毒ニ近し因て茲に載れ

一葇

短葉の物

防葵　牡丹　ぼうふう　五島防風

豆州相州房州等の海辺の生ず葉ハ牡丹に似て後緑色三四年を經るの花莖を抽て頂に傘状をなして小白花族生し當歸花の如く實ハ羌活の如し根も羌活に似て蘆頭に毛の古人參に充實一ころとなりかつて人參の屬に非ず入防風に偽る用ひべし

狼牙　みつもと　本曽信州

野州日光山足尾及木曽山中に多し宿根より生ず莖ハ蛇苗に似て長く龍芽菜に似きに似て三葉をなす莖葉も茸の如し夏月莖を抽て直生一枝を分ちて五瓣の黄花を開く形蛇苗又紅へひいちごに似う後實を結ぶ鱧腸草の實に似て小ふり熟すれば黒一根ハ龍芽菜に似う老根頗る牙に似う木曽山中にてハよすゞさと称して大に恐るゝ事と八毒と云ふなり和名鈔にこまつるきと訓古人大葉のないろさゝ〳〵を充るハ穏ならん

よごひらき　そくさ　共に同上

一種
のうろ 豆州方言

豆州田方郡江濵邨及天城山神集嶋に多し其形状前種の如くして但初生より葉茎ともに紅色根亦同じ

一種

草蕳茹

やぶそてぶ 江戸

白蕳茹

さハうるし 城山

田野下湿の地に多し正二月宿根より生ず形状蕳茹に似て稍葉黄色高さ二尺許夏の入ハ苗枯て根ハ枯す根の形大母指の大さ長さ三寸横生す十一年一節あり葉根皆白汁あり水蠱脚氣に用て甚効ありと云

一種

形状同して但葉圓きもあり根塊をなして蒼朮に似たり

大戟

はやひとくさ 延喜式

種類多し今紀州大戟を以て上品とし淡路土佐筑前紀州播州等の海辺石の間に生ルハ岩大戟と云十一月頃宿根より生ス茎紅色葉ハ蘭茹に似て厚く粉緑色春夏の間高さ二三尺梢に枝を分ち形蘭茹に似たり實ハ山椒の大さ花[illegible]りて茎葉白汁あり根黄白色にして長く軟なり時珍の北方綿大戟色白其根皮柔軟如綿と云是なり

一種

ちとうび大戟

武州多摩郡大箕谷辺に生ずる物正月苗を生ず甚紅色長じて緑色に変ず葉柳に似て細く花實は同じ根赤褐色にして軟かなり浅黄色味苦し これ時珍の説に杭州紫大戟為上と云ふ是なり

一種

京小倉堤に生ず大戟なり葉細くして一根より叢生す

江州伊吹山にてゆるきと称する大戟あり是又苗小にして土大戟と同じ

澤漆　ちやのとこさ　本草　和名

漢以後弘景及ひ日華子等ハ大戟の苗を澤漆と時珍の說ハ土宿本草及ひ實藏論等の書ハ從て猫児眼睛草を以て澤漆とす今これハ從ふ一名猫児睛枝荒とも云和名すゞりぐさ一名きつねのすゞ枝とも云冬月苗を生し田野ハ多し葉ハ馬歯莧の葉ハ似て粉緑色苗初地ハ揚寸春月高さ一尺許梢ハ五七枝を分ち傘の如く頂ハ四輪緑色の小花を開き後小き緑子を結ハ夏月苗皆枯る

一種　たちとくさ　きつねのちゃ　山城

諸国山陽の地ハ生し葉深緑色ありて根ハ岐多し硬く走時珍云處の土大戟ハ似て莖四稜の亭保年中ハ渡る唐種大戟ハ形状土大戟ハ同じ下品なり

甘藷　芋つくね

甘藷は南蛮渡来の自生多
年草にして一根叢生し蔓ハ
形状朝顔に似て葉互生す
その蔓地を匍ひ節毎に根
を生ず一節を一項とし数
十項を連ねて一茎となる
一節に一葉を着け葉腋に
一花を開く花色淡紅紫
の別あり根は塊状の肉質
にして大小あり

一種　くさ大戟

早春宿根より生ず初め横に生じ後に立莖甚紅色長さ五寸ほどにして花をつく形甘遂と同花の傍より枝を生じ大戟の如し根横行して二三尺葦の管の大さ

一種　たぎく

菊の類にて黄あつまりて花の形をなす故の名なり

なもきうさう　州尾

俗ふをらんだ甘遂ともいふ白鬚根赤し春苗を生ず形扶甘遂に似て但小なるのみ夏秋の間枝を生じ枝の頂ゝ葉族生して菊花の如し一説ホソエノアヤメの原ゝ有之云

一種

荷蘭一種の甘遂二品物印忙に載る處の圖

續隨子

あやとうな　ちくとくさう

秋月實を下して生す嫩苗羅漢松まきの葉に似て軟にして青緑色冬を経て春に至り高さ三四尺特生王不留行の葉に似て長大二葉或四葉對生し梢に四の枝を分ち一枝二枝を生て一枚四枝とある葉間に黄緑色の花開り大戟花に似たり後蒴を結ぶ殻三ッ合ふ形蓖麻子に似て刺ふし中の實の形巴豆に似たり茎葉白汁あり此實食すれハ口中を刺る如く後下利す此物の油オるとかるの油の効に近し故に是をオるとさうといふ

狼茗

ろふもろこさう　延喜式

あめきくさ　大和　此ノ故ノ名ヅク

そまつるところ

杉みつき　和名鈔

肥後根の形ところに似る故誤て食ハ毒ふあるうて走りて

武州大嶽山中及ひ木曽山中大和国宇田郡山中肥後勢州等の深山ニ多シ
正二月宿根より生ス苗高サ尺余葉ハ笹ノ似て深緑色長サ尺余緑色岐の間ニ花を開く外紫ありて内淡黄色形烟草又桔梗の如し故ニ七ツ桔梗ともいふ後實を結ぶ形龍葵うつきの似て大ニ緑色花實皆下垂す根ハ商陸ニ似て節多く黄色なり用薬須知ニ中風麻木及打身ニ用ゆと云近頃蘭方ニて眼を療るニ先此根を傳麻薬ニして後治療すと云水莨菪ハ毛莨の

續隨子

狼菪

雲實

とまらず 伊勢 和名　じやけついばら 大和本草

かわらとうろういばら 江州　ねむいばら 摂州

常陸の国筑波の林中三河国鳳来
寺東山中武州野火留平林寺山
中其の他備前の産にあり蔓生繁茂し
多き本あり根茎共に葉八合歓の如く
似て枝葉茎葉共に逆刺ありて人衣に
鉤り刺ありて掛て之にくげとらんと夏月
枝の梢に穂をなし花を開く黄色形ち
似て黄色其花中蕊あり淡黄なる赤褐
長く後に莢を結び肥皂莢に似て赤褐
色中に実あり形扁く似て合歓子の如し

蓖麻

青莖の物

紫莖の物

苧麻 からむし

本草和名

リレニュス 鯛羅 ウヨンデルボーム 蕃語 筆

春實を下て生ひ嫩苗ハ圓葉叢生一莖後生ひる葉ハ七八尖あつて刺桜う冬ハ用金盤ハ等小似う幹青色ゐて節あり中空ゐて莖幹白物あり夏月高さ丈許梢ゐ穂を生ひ黒三稜松笠の本草の穂ゐ似て黄赤色の葉を吐ハ下垂ゐ毬を結ぶ子房の殻の如くうて軟き刺あり熟すれハ殻硬く中ゐ三實あつて牛蝉ゐ似う此油印肉の用とハ此青苧の物ハ時珍云有白と云物是なり

一種

紅き苧の物文政中江戸へ来る嫩葉も亦紅色ゐ花實青苧の物と同一葉蕓云今胡中来者苧赤と云保昇説とゐも此赤苧の物なり

博落廻 ちやんをきく さてやきくさ

錄補

博物館

一種 よめまき 十
附子 漢種 十一

一種 川烏頭 十一
烏頭 ざうかぶ 十二

一種 鐵色の物
一種 細葉の物 十三

一種 白花の物
一種 蔓生の物 十四

一種 蝦夷の産 十五
一種 アコニチエム

虎掌 うらしまさう 十六
一種 白南星 十七

天南星 やまこんにやく 十八
一種 蛇頭草 十九

一種 ゆきもちさう 廿
一種 へびのだいはち 廿一

一種 むさしあぶみ 廿二
蒟蒻 こんにやく 廿三

半夏
一種 竹葉の物 廿四

一種 紫花の物
一種 紫縮間道の物

一種 大葉半夏 廿五
一種 大葉… 廿六

小く三月頃枝の間ゟ穂を生じて小緑の花を開く秋実三四房一処につく大角豆の形に似て小なり苗葉色臭気あり蘇恭の説に葉似茗而狭く又弘景又細実黄者呼為雞骨常山と云是なり

一種

海州常山 くさぎ 本草和名 たうのき 倭

漢名一名臭竹樹 救荒本草 臭梧桐 群芳譜

人家多くあり灌木なり葉は白桐に似て小く夏月枝の梢に五瓣の白花を攅生す實は碧色蛇葡萄に似て萼紅色なり花の時此樹に蟲多く其中に一小虫ありて小児の疳疾を治し蘇恭の説に海州出者葉似楸葉と云是なり

常山

花

一種

土常山

あまちや

一名三百頭牛藥

諸國深山の崖などに生ず葉は繍毬に似て狹く六月花あり中は小碎花あつまり外に四瓣の白花を開き日を經て紅色を帯ぶ形全く繍毬の如し葉の味ひ甘し和人採り蒸て青汁を去り飲料とし佛事に用ふるあまちや是なり

一種

海州常山

一種 べにがく

八重がく

てまり 甲州

紫繍毬 救荒全書

形状がくあぢさゐに似て花千瓣重臺なり紅色なり

一種 がく

胡蝶 廣東新語

蝴蝶花 同上

壽錦

玉繍毬

麻葉粉團

碧繍毬

當歸縣志ニ花小朶簇成團毬色白帶淺碧ト云ヘリ

山中陰地に生ず葉は錦帶花の葉に似て對生す花は [illegible] 白色 [illegible]

土常山 附録

みやまかうぎ かりさ うなぎね けち

豆州権現の山に多き一種俗にセイイチなり
方言小木にて枝幹青緑色葉は
大椒葉樹葉ぶなに似て小く薄く四時凋まず
秋の末枝の節ごとに花を生ず白花を
後實を結ぶ熟して白色なり

一種 かしわらん 江戸

前種の大葉なるもの
葉相対の如く花
實同し

一種

きまめ

ヘデイサリユム 蘭

近年琉球より来る高さ四五尺葉は胡
枝子に似て長し秋穂をなして黄の
小蝶の形なる花を開く花後莢を結ぶ
毛有りて扁く細く角の中の豆甚だ大
豆よりも黄褐色地より下に生
冬月葉の中より蔵す

附子 漢種

附子ハ漢種ノ物類ニシテ其ノ附子ナリ二月苗ヲ生ス葉ハ石龍芮ノ葉ニ似テ厚ク又艾葉ニ似テ
光澤アリ茎肥大ニシテ秋月高サ三尺許頂ニ穂ヲ抽テ花ヲ開ク上一瓣左右二瓣
下二瓣ニシテ其色紫碧ナリ根ノ形大ニシテ黒ク少ク紫芋ノ子ノ如ク形尖リ春附
子ヲ栽テ秋ニ至リ附子ノ傍ニ附子ヲ生ス之ヲ附子トス其母ハ烏頭ナリ漢種ノ附ヲ栽
培シ附子天雄川烏頭等ヲ採ル又益部方物略記ニ生綿州彰明縣者最良相
一子重及二兩者甚希色紫ナルヲ良トス古今之ヲ用ルニ毒ヲ去ル童便ニ浸シ或ハ薬汁ニ
浸シ或ハ火ニ炮リ種々ノ法ヲ用ヒテ毒ヲ去ルトアリ因テ舶来ノ附子ハ必ス塩ニ
漬テ製ス故ニ多年文政八酉年ノ秋唐山ノ法ニ從テ製シタルニ肉白
色ニシテ白雲ノ如ク葉ハ舶来ノ川附ノ如シ是ヲ舶来ノ物ト異ナルコトナシ
其毒甚シ容易ニ用ユヘカラス呼日[illegible]天雄ハ本白天雄附子側子
獨長大者是也ト云諸書皆從之[illegible]附子ヲ栽テ試ルニ附子ヲ栽テ其
秋花實アルモノハ必附子ヲ生セス根ノ形ニ
更ニ此理アリ但附子ノ中ニテ長大ナルモノ側子ハ烏頭ヨリ附子ヲ生
附子ヨリ側子ヲ生ス一年ニシテ子ヲ生シ此理アリ
ハ附子ノ小ナルモノナリ漏藍子ハ此亦側子ヨリ小ナルモノナリ

一種　川烏頭

川烏頭と称する物あり是は
漢種なりと知べし舎園多あり
多く見ず文化八年一大葉の
物を枝を見て附して嶽東に
大きな花茎高さ三四尺自立
紫花深紫色なり根大なり長
く此皆漢種の物亦重了

烏頭

於宇 本草和名

いぶす 和名鈔

とりかぶと

かぶとぎく

又此國にて毒物 [illegible]
[illegible]
附子の形草に似 [illegible]
[illegible] 烏頭 [illegible]
[illegible] 野生
[illegible]
[illegible] 諸國の山 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一種　白花の物

白花の物をななかぶらと云 奥州に自生ありと云
根圓くして大なり 附子の形に似たり 故に附子
記す 白花者毒少しと云

一種　蔓生烏頭

筑前國上畑村堂輪谷に生ずるは嫩葉より蔓をなし一丈許り斜めに又奥州及び津
軽山中に自生あり形状常の烏頭の如くにて蔓をなせり花は穂をなし根の烏頭に異なる
ことなく花に二種あり浅碧色なり

一種

蔓生烏頭

津軽の物

一種

蝦夷の産

シヨロク蝦夷

蝦夷の産ハ葉の形ち常の蒼蒲の如くして花又あり濃緑色光澤あり葉細く根小かく土人射罔作ニ用ゆ

一種

アコニチユム

荷蘭の書物印忙の黄花の物あり葉の形花又甚だ細し和漢に黄花の物あることを聞ず

一種

白附子の詳なるかしれ

虎掌天南星

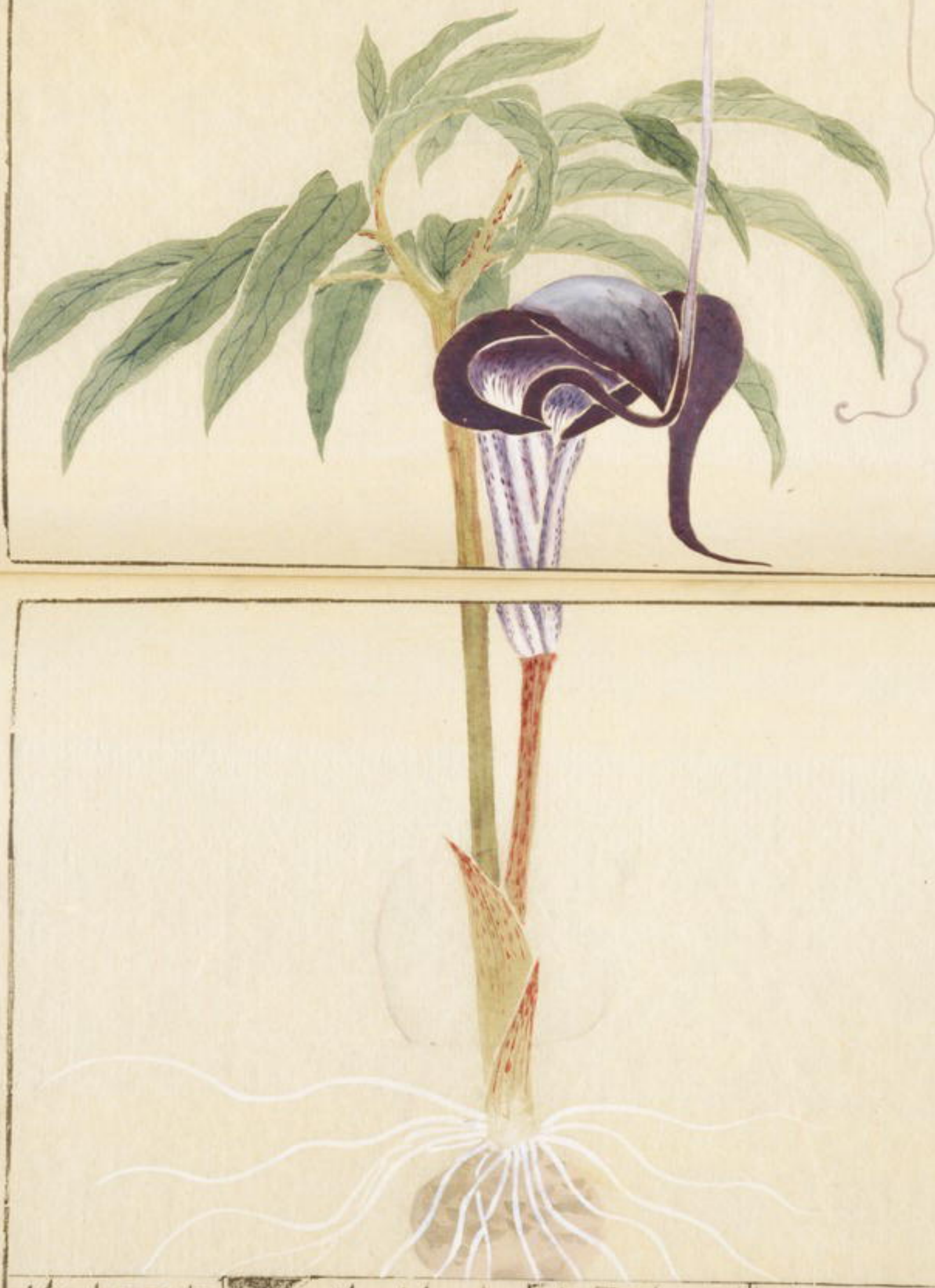
時珍ハ宋の開寶本草の天南星を合て一物とす然れども本草衍義の虎掌と天南星を分別し又本草蒙筌等ハ南星即虎掌同類異種とす此説に從て二種とすべし

虎掌

おほほそみ 和名鈔　てんなんしやう 俗称　うらしまさう

ダラコニチユム 荷蘭 印忙

處々山中にあり春月宿根より生じ一莖特生す頂に花葉又土葉有周りて葉茎の中より花を生ず一瓣蓮花の如く紫褐色花の中より長き鬚を出す根は半夏に似て大なり黄色肉白く圓き子を附す虎の掌に似る故に此名あり



一種

白南星

葉微シ長ク茎ニ高ク一尺許ノ斑アリ緑色花又
緑色ニシテ鮮ナリ前種ト同ク根モ同シ秋ニ至テ
實ヲ結フ形玉蜀黍ノ如ク紅赤色ナリ

一種　へびのだいはち　やまこんにやく

蒻は南星に似て葉の周りに歯の如き刻あり葉肥大にして紫斑あり其斑は文彙にして[illegible]に似たり
根又南星の如く二種あり此物南星より多く之を採て薬店へ出すもの蒟蒻集解曰
志説ところの斑杖なり又薬店にて甚大なる蒟蒻なりを南星の如くす

一種

竹葉の物

半夏

からすびしゃく　本草和名

一種

葉あつくしてほそく花紅色の蘭あり以上二種ともに根大きさ拇指の如く白色是を蘭花葉の龍に方家の用に種別半夏とも云ふ花の根を製するに石灰水を用ゆ但其泔水を以て浸し洗ひ乾し用ゆべし

德川林政史研究所

森口川中之水普請圖帳

繪圖帳

一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一

一種　一種　一種　一種　一種　一種　一種　一種　一種

一種　一種　一種　一種　一種　一種　一種　一種　一種

山躑躅 附録 やまつゝじ 卅六	一種 白花
一種 やまつゝじ	一種 白花
一種 春鵑 廿七	一種 白花
一種 せいらいつゝじ	一種 ぎやうぎやう
一種 青のやまつゝじ 廿六	一種 杜鵑花 さつき 廿九
一種 四時杜鵑 青きさつき	一種 あかきさつき
一種 もちつゝじ	一種 石巖 きりしま 廿
一種 けんぎう	一種 うしとの
一種 八重きりしま	一種 ちうせん 廿
一種 紫花	一種 ふ入のさつき
一種 大らかん	一種 あかさつき
一種 きりつゝじ	一種 きりしん
一種 うんぜんつゝじ 廿	

本草圖譜巻之廿三

東都　岩崎常正　著

毒草類三　六十七種

蚤休

葉三三層をなす此和産詳ならず一説に出羽の月山湯殿山津上口にありと云一茎の葉車の輪の如く附て二三層をなし赤き黄絲の如き蘂出づと云未だ親く目撃せず

一種　つくばねさう　加州　そうがうつう

紀州熊野及加州白山に多くあり春月宿根より生じ一茎の頭に八九葉車の輪の如く附く其中に一茎を出し帯緑色にして瓣中に白色の花を開き後実を結

一種

ゑんれいさう 河州　　延年草 北圖

たちあふひ 江州　　みつばあふひ

すゞろさう 勝州　　むぎうつ 信州秋山

諸國深山にあり春月宿根より生ず形あふひのごとくにして三葉あり葉中に茎ありて三葉を生じ枝の中に三瓣の白花を開き實を結ぶ形蓬草のごとく實に似たり
一種野州日光山にあるは紫の花なり信州の土人根を採り陰乾にし小兒の虫消
に用ゆ又眞須地にゑんれいさうあり山城國大悲山和州宇田邊に多し痞積痛氣
甚妙す白顔癇小兒癖積下利止痛風宜とあり

一種

くるまばつくばねさう　　つくばねさう 野州

野州日光山及び駿州富士山中より別草漢にあり

一種　日光蚤休

八葉對生の物なり見文日光の深山陰地に生ス一莖八葉花淡黄色四瓣なり以上二種は根細く白色鬚の如し

鬼臼　かさくさ　つゝかねさう　同名　つゝかねさう

江戸深井難家伊兵衛著處の地錦抄の鬼臼の圖を載ス今此物絶てなし故に昔日撃せし弘景の説に有兩種一種ハ有葉先著最勝と云物の初産詳ならす時珍の説ハ丹房鏡源の文木律草有二種と云正字通の獨脚蓮の鬼臼と別なきことをいうときハ集解中ハ二種混したるやうなり

一種　さんかさう

江州伊吹山の産ハ高さ一尺許葉ハ切込みなく鋸歯ありて二葉對生し其形をなし

一種　てうちな

下野日光山及ひ諸國山谷の陰地ニ生す春月宿根より生し一莖二葉對生其形ハ蝙蝠の翅を展たる如し葉の中に莖を出し蘚ある荷葉の如く其二葉の生する処より花ハ小くして白色二三寸後圓き實を結ふ根の形ハ黄精或ハ射干等の如く年ゝ節を生し大さ管の如く黄白色なり此物弘景の今馬日毒公状如黄精根と云又は射干と云是なり古説の獨脚蓮ハなかるへし又ニちを荒うの謬りなりやんすまさうの外麻の類なり

きつねのさう

一種

圓葉(まるは)の物

[illegible]

[illegible]葉の花 又白の物

射干 ひあふぎ からすあふぎ

花蕳 廣東新語

草蕳 同上

一種 なつひあふぎ

紅射干 花暦百詠

花深紅色に紫の斑あり

黄射干 花暦百詠

白ひあふぎ

近年此種出 白色にして微し淡黄を帯ぶ

稀に山中に自生あり 春宿根より生じ葉は扁にして細く互生す 萱草に似て直立し新緑色 又夏日六瓣の花を開く 黄紅色にして紫の斑あり

鳶尾

こやすぐさ 和名鈔

いちはつ

ひおうぎ

一名 紫蝴蝶 本草圖書傳

木曽の馬籠ちう人家ニ栽る葉は蝴蝶花やりか似て三四月茎を抽て花を開く形燕子花杜若の似て関のよふなるありて紫碧色三瓣は外に上ゑ向ひ三瓣は内して下ゑ向ひ黄色の毛あり根は胡の大さ形知母ニ似る

一種 白花の物

一種 しやが

蝴蝶花 鐘花

形状鳶尾に似て根細き鬚ありて花中白き斑あり

一種 ひめしやが

一種 白花ひめしやが

形ひめしやがに似て細小く花白色なり

一種

すゞぎぼうし

漢名 間道玉簪 汝南圃史

形状小ぎぼうしに似て葉の中央白色なるもの又此小なるは数種あり
一種わうし又ちよくわうしと云

一種

うんそうさう ぎんかうし

ぎらんのぎ
ならしるの葉
稍狭く葉
の瓣の白色

一種

きんらん

漢名 小葉 群芳譜

水地わりて葉つく
りきがやかる似て
小く花紫色なり

一種

ゐんらん

漢名 小白 群芳譜

白花の柳の葉の形同して但淡緑色なり

一種

かぴたんおらし

葉縞く細く葉の中淡緑色の筋ありて花紫色なり

一種 つゞかつかうし

葉狭く七の如く又茶花 [illegible] の葉の如く又狭く花小さく紫色

一種 白花の物

葉の形同じく但花緑色なり

鳳仙 ほうせんくわ

つまくれなゐ

ちゝめき

春月実より生じ茎大約二尺 葉の形桃葉に似て鋸歯ありて長し 紫花地子似て [illegible] 一重の物あり 又 [illegible] 色の物あり 又紅白紫相雑の物 [illegible] 色の物 [illegible]

坐拏草

つりふねさう

よろひさう

ほらがひさう

武州道灌山水邊の地ゟ多し 春月實子ゟ生じ 莖ハ鳳仙ゟ似て 紅色 葉ハ鋸歯有て互生 秋の稍花を開く 形ハ鳳仙ゟ似て紫色 黄又鳳仙ゟ似て細し 其實小の微し 熟すれバ自ら裂く 花より小なり 鳳仙の實の如く 熟すれバ 文 散ずる 六月

一種

白花つりふねさう

開紫花結實 采其苗入藥 聲易得とあるハ是なり

攝州及び江戸稀ゟあり 形状前種と異ならず 但し淡緑色ゟして花白色なり

曼陀羅花

一種　うつくさ　きつりふね

相州大山邊ニ多ク實ヲ生ス莖ハ鳳仙ニ似テ細ク痩微シ葉ハ薄荷ニ似テ鋸歯粗シ花ハ斑アリテ鶴ノ形ニ似テ黄ナリ

夏月開花形鳳仙花ニ似テ黄色ナリ

羊躑躅

一種　黒船つゝし

地錦抄ニ見ル花
年中ニ濃キトシ
葉大ニシテ石楠
花ニ似テ短ク太キ花
色石楠花ニ似タリ

一種　紅れんげつゝじ

一種　紫つゝじ

よど川つゝじ

一種　五葉の物

山躑躅 綱目

やまつゝじ

あかつゝじ

白花

諸處山中自生多し高さ三尺より丈許に至る葉の圓く大の花も淡紅なり時珍説の紅者と云ふ物理小識に映山紅有紅白紫三種

一種 山つゝじ

葉のやまつゝじに似て花白色又紫白雑色の物あり

一種 琉球つつじ

葉ハ山躑躅ヨリ長ク[illegible]

[illegible]

一種

[illegible]

[illegible]

一種 ごようつゝじ

花薄色 細瓣なり

一種 しぼりつゝじ

薄紅

一種 さつき

杜鵑花 遵生八牋

川鵑花 同上

蝉蛸 蛸 瘤 錦綾

本綱小ナル盤ノ如ク乗小ク稍ク背ニ紅花のもの又雑色のもの断ありの花層百重ありの蝉蛸花葉後花
紅四月に云又秘傳花鏡曰杜鵑長止尺許有大紅粉紅二色と云又遵生八牋ニ杜鵑花有
蜀中者佳謂之川鵑花内十數層色紅甚出於四明者花可二三層色淡と云八重のさつきこ

一種 四季さきつゝじ

漢名四季杜鵑（秘傳花鏡）

一種 りちつゝじ

あかつゝじ

このつゝじ類山に生す葉小さく花も細し粉うすく小兒摘て食す又紫花を紫花と云ふ山つゝじの類なり生ず

一種 きりしま

石巌（秘傳花鏡 圖史）

高さ一二尺に過ぎず葉小さく密にして四月に花を開く淺紅色なり

一種 りうきう きりしま

形状きりしまに似て花色赤色の花紅の重瓣なる又淺紅色の花あり鮮紅色の類また白花あり皆葉小さく細花なり

一種

うしみの

一種

八重きりしま

一種

てうせん

同紫花

一種　峯のさき

一種　大らかん

一種　ゆうかわ

一種　金絲　俗にいふさつき類なり

一種　きりん

花瓣狭くして曲り深紅色形狗櫞花に似て紅色なり

一種　うんぜんつゝじ

肥前の雲仙が嶽に産す葉至て小さく黄楊の如く圓く枝繁茂し春月花を開く小にして紅色又白花あり

本草圖譜卷之廿四目録

麁草類四

芫花（さつまふト） 二
一種（おかんぴ） 三
莽草（いぬさゝ） 五
一種（つるちさゝ） 六
一種（細葉の物） 八
一種（葱生の物）
毛莨（さまにあらず）
一種（山生の物） 八
蕘花（きさがんぴ）
醉魚草（ふとうき） 四
茵芋（ゑまーさゝ）
石龍芮（たうし） 七

一種　ぎんしらげ　一

一種　きんでいさう　九

牛扁　ぎうへん　れいでんさう　十一

虱建草　しつけんさう　附錄　ころ〳〵のね　十三

蕁麻　ちんま　いらくさ　十五

一種　もゝぢでんま　十七

一種　おーだ　十七

一種　ささんまう　十七

一種　きんしらげ　十

一種　朝鮮種　十二

一種　ラユニングエルス四種　十

一種　水竹葉　すいちくやう　附錄　いわくさ　十四

一種　木曾の産　十五

格注草　かくちうさう　十六

海芋　かいう　みづでさい　十八

一種　白花の物　十九

一種　瑠球　りうきう　廿

一種　滿作　まんさく　いも　廿一

透山根　とうざんこん　おにぜり　廿二

鉤吻　かうふん　つたうるし　廿三

一種　黃精葉鉤吻　わうせいやうかうふん　ぞくうつぎ　廿四

一種　五葉ざさ　廿五

一種　ワートルスベールエロイト　廿

芫花　ふじもどき　さつまふじ　俗

近江州森山の中より小木あり庭中に栽早春葉に先て節間に花あり四瓣形瑞香花に似て紫色後小實を結ぶ漸葉を生ず形巻耳に似て濶く枝莖紫褐色柔靭なり根の形大戟沈たいに似て軟なり

一雄 いぬ
民州ようち野の原に生ず
葉、小狭にして厚く、ふち細かなぎざ
小枝ごとに着く。白色、香気あり
花、六月より八月に至る。
花弁、五つ。雄しべ、五つ。雌しべ、一つ。
実、秋熟す。

蔓性灌木 やまぶき
葉、互生す。
花、四月に開く。
実、秋熟す。

莽草

ものあり

一種

紫莖の物あり　葉の色淡綠色葉の莖紅色實ハ紅色ふり

一種　つるもの

葉も菌芋も似てふく枝幹長く蔓のごとく冬月淡紅色のお花を咲く

菌芋

一種紫茎の物

一種 つるしきみ

石龍芮

油灼々 萩苅 野語

なかゝし 俗名 ぎぶさせう 白戸 かへるのきつけ 上総

隨地皆あり水邊冬月より生す葉ハ烏頭ふ似て光澤あり春月高さ二尺梢ま花あり五辨黄色梅花ふ似て黄色光澤あり後實を結ぶ圓一ツ長し

一種

武州豊嶋郡野新田ふ多し光澤あり高さ三四寸五辨黄色光澤あり早春宿根より生ず葉石龍芮ふ似て甚よく

毛茛

なまはげ あゝかよ かもみつた 播 漢名一名水胡荽

回々蒜　蝎尾草　以上萩苅

石龍芮

石龍芮と同処ふ生ず葉ハ石龍芮ふ似て夫より光澤ありて毛茸あり花五辨黄色實ハ圓ふて楊梅ふ似て緑色味辛ゝ

一種

山生の物ハ葉圓ふて馬の蹄の如く又葱葵ふ似て毛茸あり花五辨黄色なり實又同ゝ

一種 小毛の外川

もとくさ

一種 ぎんばうげ

葉ハ山生の物と同しく但花白色銀の如く背ハ黄色なり

一種 きんぱうげ

花千瓣珠子菊の如し

一種 きんばいさう

一種　ラニユンクユルス、荷蘭物印ぢ載るところ毛茛類、四種

江刕伊吹山にあり葉烏頭に似て花又多く深緑色一根數葉を生ず夏月莖を抽て高さ二三尺末枝を分ち五辨の黄花を開く蕊長くして大さも形も金絲桃に似ず實を角ある毬を綴り粘液あり

牛扁（ぎうへん） れいぢんさう

コロトン 蘭

朝鮮種（てうせんしゆ）

虱建草

水竹葉 綴附 いぼくさ いぼとりくさ

処々水側に多し春実より生ず葉は鴨跖草に似て狭く形水竹に似て地に伏す夏月三瓣の淡紅花を開く

蕁麻 一名 藪麻 物理小識 燖麻 益部方物略記

いらくさ いたいたくさ

のこぎりくさ 社

あちくさ

処々山野陰地に宿根より生ず 形状野苧のまと同じ鋸歯粗く 茎葉毛刺あり 穂は苧麻に似て長くして上に向ふ 人これに触れば其痛むこと蜂の螫すが如し 小便にて洗へば愈ると云

木曽の産

夜長草 の物

日光及木曽山中に産

一種もうせんごけ

格注草　またうしおろ

一種　おしだ

格注草　まちまち古説ありて穏當ならず園山中に
あり四時常青し根は硬く骨砕補
木の如し繁黒色節間ニ葉對生して葉は厳に似て堅く光澤
あり背は白色なり一年一層を生じて四五尺になる

一種

おしだに根茎皆うこもの如く但葉の枝ざまは倒植草に
似てかたし根もまた格注草うこもの細し

海芋　みづみやう

信州野澤なる白生ち水澤出ニもの宿根ち栄ゆ葉ハ澤瀉ニ似て長ク大ニ莖ハ高サ三尺余ニして頂ニ一莖ニ數多ノ白花ち開ク花ノ形ハ水芋ノ花ニ似て小ク黄蕊ち圍ミ開ク花ノ味ハ甘ク食ニ堪ユ

一名海芋　一名水芭蕉

一名沢桔梗

海芋

一種　琉球ゑんげ　ストリユハノ蘭ニ
　　萎花ゑんげ

ワートルスペールコロイト之第三種

芋ま似てふく三尖あり夏日
黄間う花を開く一雜淡紫
色悪臭一秋芋の花ま似て
葉長くふく根零錄子ま似て
長く又芋ま似てふり時珍説ま
名ニ野芋とあり貽

木幹芋 宋祁海芋賛

満刀いも

近年大坂より江戸へ来る葉白芋あるひと同し根土の上まて出て樹の如く緑色夏月葉の間より花を生し形白芋に似て黄白色莖葉長し琉球の草木を寫せし中に蚪芋に似たる物あり時珍の説に宋祁海芋賛に云木幹芋葉擁腫般戻と云是なり

透山根

鉤吻　つたうるし　かきうるし　阿州　一名野葛

野州日光山上総の加野山等に有り蔓草なり形状地錦つたと同し蔓冬不凋細鬚多し夏月枝梢穂をなし小黄花を開き小実を結ぶ茎葉汁あり人此毒にあたれバ漆瘡の如し

一種　さくうつき　かてらうつき　うまあらいうつき

ごそやうず　市郎兵衛さいろし

常州相州金沢武州練馬の山中にあり小木なり一根叢生し黄精漢種に似て方茎対生夏月枝の末に穂をなして花あり紅色後実を結ぶ赤色にして人誤て食へハ死す是弘景の説に葉似黄精而茎紫當心抽花黄色初生極類黄精故人采多惑之遂致死生之反と云是なり又奥州越州にもあり其木青い十薪とせし若薪と雑て味噌を焼て食ときハ忽死すと云甚しき越後の小児此実を食卒然として吐血して死す救ことあたハす又此物をいらしやうとも云

野葛　つたうるし

ぞくうつぎ

黄精葉鉤吻

蔓草類

鬼絲子	祝ゐらさ	二	
一種	まつふさ	四	
一種	水晶かづら	六	
一種	圓葉の物	八	
一種	特生の物	九	
一種	みまはりたし	十一	
覆盆子		十二	
五味子		三	
一種	さねかづら	五	
蓬藥	みもいちこ	七	
一種	たくりいちご	八	
一種	なるとあづいちこ	十	

一種 おべとまさう

此草誤て一葉鍋ふ入ハ其鍋割て捨ると云
又一葉ハ口中ニ入ればれハ口中割ル如し 故ふ
名づくるといへり深山の陰地ニ宿根ス生ズ
苗葉蓁雑黄精等ふ似たり葉ハ牛
尾菜ふて似て互節あり一莖四葉
春月葉の間ゟ細き莖を生ス 四瓣の小花を開き
下垂緑色ゟ是物雷敷説ニよろの一種有ニ毒小草ト云是ふ

一種　おどきいちご　十三

一種　尾州の産　十四

一種　こゆをき

一種　ちすいちご

一種　みみーいちご

一種　めくーいちご

一種　白花の物

一種

一種　五葉いちご

一種　さくらいちご　十五

一種　くまいちご　十六

一種　きいちご　十七

懸鉤子　たちよいちご　十八

蛇苺　へびいちご　十九

一種　荷蘭の種　廿

一種　冬いちご　廿一

木鼈子　まちん

番木鼈

本三百十圖譜參之十五

東都　岩崎常正　著

雙子木類

兎絲子

一名金線藤（揚州府志）　菟絲子

ネカヲーかつら　うしのそうめん（抗前）

サイナムシ（朝鮮）　キユスキユク（荷蘭）

初夏山野の草莽中小實ありて生じ始生ときの長さ四五分の白絲の如くにて葉なく其蔓傍の草小纏ひ長ずるに從て根の方枯其紆ふ所無し肉を生ずる樹を捜すが如く他草の氣を吸ひ生長し終ふ絡ふる草木を枯すこと甚し如し節の間ふ小白花を攻つまり開き後實を結ぶ大麻子ほどの大さの殻中三四仁あり形薏苡子のごとふ似ふる此物他物の氣を假て長ずる毒草木ふ絡ふるは用ふべからず必ず有ふ生ーたるを採用ふべし

五味子 朝鮮種

まつぶさ

蓬蘽　ふもいちご

暖國の山中蔭地ふかり四時凋ず莖細くして蔓の如く葉の圓らにて鋸齒ありて錦葵ほどの葉小似て光澤ありて五辨の白花實は冬月熟す紅色あり是汪機説ところの寒苺あり

一種　圓葉ふもいちご

圓葉の物形狀ふもいちこふ似て葉圓し

一種　たぐりいちご

駿州豆州等ふかり葉も寒苺ふ似て大ふ葉莖とりふ紅色の毛刺多く蔓の長さ八九尺地ふ附て根を生ず十月實を結ぶと云寒地ふていまだ花實あらず寒苺の一種なり

一種　水晶かうぶ

さねかうぶの一種にて實白色あるものあり又淺紅を帶る物もあり

蓬蘽（ほうるい）

みついちご

たくりいちご

一種　特生の物

形状たちいちごに似てきれこみありて鋸歯あり

一種　あとろいちご　藤田蔗

ふせいちご　みつばいちご

あくふし

山野に多し宿根より生ず葉は莨三葉にて稍蛇莓に似て硬く大なり春月五瓣の白花を開き實を結ぶ火の蒂のごとく中に小粒攅りて小赤色なり子なり並蔓の如く刺あり處々根を生ず此時珍説處の藤田蔗なり

一種

みやまかしくだし

ゑびからいちご

深山に多く舊莖より生ず葉は
ゑびがらいちごに似て頗る大に背白
色夏月五瓣の淡紅花を開く
實は桃の如くに似て紅色味酸甘
し莖紅色毛刺甚多く長さ一
丈に及び梢地に附ときは根を
生ず

覆盆子

イマレツブ 蝦夷

リユビユス 羅甸

フラーメン 荷蘭

さゝきいちこ

霞盆子

漢種の物處々葉圃ふゝり形狀薔薇ら小似て一莖五葉光澤ゆり枝幹小白刺あり夏月花ゆり一枝數十花五瓣白色實の蓬藥小似て紅色あり和産のとろいちこに實の形さうふゝくるもの名つ形狀相似ゝり

一種　うきいちご　仙壷

幹の蓬藥ふゝて紅色の毛刺多く枝直立し葉ハ一枝五葉全く茶藨小似て狹く長く實ハ懸鈎子と同一

一種　五葉いちご　薔薇葉蓬藥　毒祐本草

いせいちこ　伊よいちこ

處々山野ふゝり谷根より生ひ又畜莖とりも生ひ葉莖毛茸ゆり一莖五葉ありて葉藤をきふゝて光澤ふく春月五瓣の白花を開く形桃の花小似ゝり實ハ五夾の蒂ゆりて菓梗俗ふゝて紅黄色あり陳士良の說ふ葉似野薔薇ゝ云是ゝり

本草圖譜　巻之廿五　十三　灌園居芳

垃葉
いちご

薔薇葉
蓬蘽
嘉祐本草

一種

尾州の産

本草圖譜　巻之廿五　十四　灌園閣蔵

一種　ごろういちご　かんすいちご

高さ四五寸葉の薔薇に似て花白色單瓣形いちごの如く實いちごに似て花實ともに下垂す

一種　さつかをき　ときんいちご　きていちご　紈紫

酴醾 閩書南産志　雅客 異中紀聞　刺頭花 泉州府志

高さ三四尺葉は薔薇に似て枝幹刺多く夏白花あり千瓣形千葉の白牡丹に似て根の至る處苗を生ず此物を古より薔薇類に入れ穢あしびらの類の花の蕚の下に實を結ぶいちごの類の花の中に實を結ぶ此物はごろういちごの種にて千瓣なるもの實を結ばず秘傳花鏡に云有紅者俗呼番茶蘼亦不香○廣事類賦引清異録曰酴醾花多名百宣枝獨步春沉香友白蔓君緑衣傳粉瓊帯雪纓

一種　くまいちご

武州處々山野に多し高さ七八尺枝幹肥大にして緑色葉の蓖麻に似て小く深緑色光澤あり花五瓣白色實大にして黄色上に向ふ味美なり

こやをぎ

くまいちご

一種　とすいちご

木曽の王瀧ニ産ス葉ハ大サ三寸ヨリ形楓の葉ニ似て大さ八九寸三月白花ヲ

一種　きいちご

山野ニ生ス高サ四五尺葉狭長く鋸歯アリ花白色五瓣下ニ向ク枝幹紅色刺多シ實ハ覆盆子ノ如シ

苺 ちごいちご

一種 もみぢいちご

尾州にてもみぢいちごと云
此も大小異り葉ハ全く山もみぢ
に似て高さ四五寸ニて花實あり

蛇苺

へびいちご

くちなはいちご

山野甚多し宿根より生ず
一茎三葉頗る蒔田藨に似て
小にして軟く細莖を引き
節の間より根を生ず夏日五
瓣の黄花を開く形紫背
龍芽草の花に似て小にして實の
形覆盆子に似て紅色楊
梅の如し

一種　白花の物

濃州三浦山に産ス一茎三葉蔓紅色縁の如く夏月五瓣の白花を開く白梅の如し

一種　荷蘭の種

をらんだの
へひいちこ

西洋の種なり近年来る形状へひいちこに似て苗葉長く大花白色實長く紅色下垂す

一種　ヲクビいちご　きゝむろ江戸

山野小径に一枝五葉形很升ありて蔓を引花實蛇苺小似て實紫色あり古時珍の説小蛇縄草省五葉七葉ともいふ是多りの物垂りの

一種　コホロイチゴ

葉小く三葉少七粉緑色花實亦小多り細蔓を引く又蝦夷に黒花のものあり

蔓草類二

使君子 二
馬兜鈴 むまのすゞ 四
一種 武州秩父の産 五
一種 狹葉の物 六
檳藤 もだま 七
一種 紫莖の物 八
一種 物卯花の圖 九
合子草 附録 おきつる 十
預知子 十一
牽牛子 けにあさ 十二
一種 そうどかす 十三

木鼈子

舶来の物生草和産あり

番木鼈

同上 まちん

本草圖譜卷之廿六

蔓草類二

東都 岩崎常正 著

旋花（そんくわ）　くやひとくさ

一種　おやひるがお

一種　ごんそいひるがお

一種　八重のひるがお

一種　そまひるがお

紫蔵（えい）　のせう

使君子

俠ヲ
君ヲ
子ト

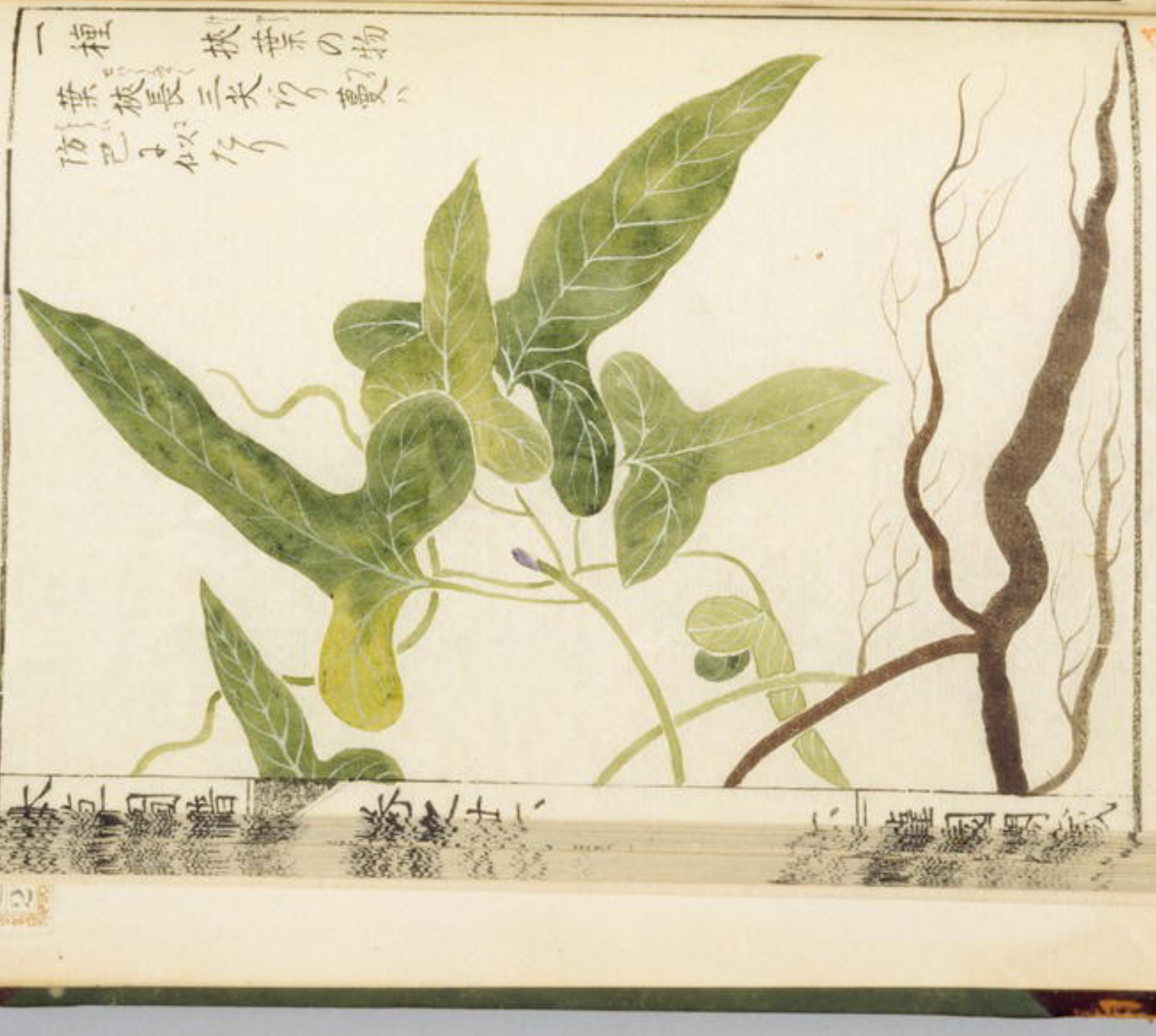
馬兜鈴　むまのすゞ　つんかくさ　播州此實ふて耳を毒す

ヒストロシアホルウヲルトル　荷蘭　ツイバクヲル　朝鮮　列尾

此根を俗ふ青木香といふ土青木香と書するハ南木香なり後世の方中ふ青木香と書たるハ多くハ馬兜鈴根なり武州近郊多くとれり春宿根より生ず葉ハ蔓ふ似て小く厚く臭氣なり蔓長さ一二丈夏月葉間ふ花とり形烟管の頭ふ似て長さ一寸紫黒色本ふ實の形あれとも多くハ實のらず根ハ土中を蔓延して大さ指の如く三尺黄赤色味苦く香とり蘇頌の説ふ開黄紫花と云是なり荷蘭ふて圓根の物をカハと名つく長根より多功労療毒性膓物花胎胞衣悪露を通ず　テリアカふ用ゐ

馬兜鈴
むまのすゞ

一種　武州秩父産

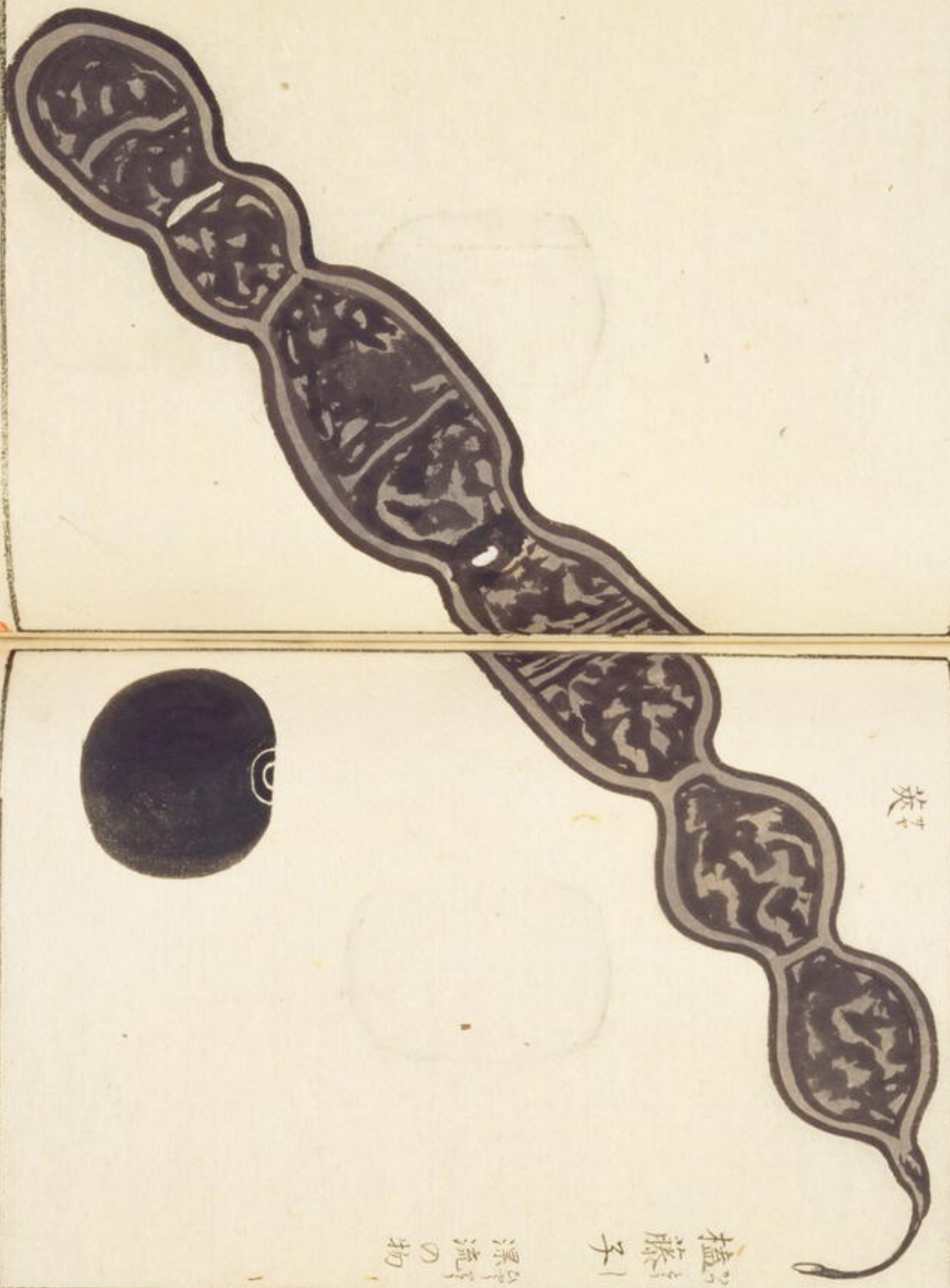


一種　秩父の物に似て葉狭く三尖なり

橘藤　もたま

橘藤子　もたま

和産ありー其莢九州四國邊の海濱小漂着するとゝろ長さ四尺許形弓袋の如ふて褐色一實毎ふくびれありて中小實ありて圓うて扁く赤褐色甚堅硬用て鐵炮の口藥入るゝー又藥莵竈とゝして氣を失ひ此實新しき物を栽れハ生す初生ハ一莖三葉そうまかつぶ小似て兩鬚を生ー て先ハ物を纏ふ漸二莖四葉を生ー又八葉を生ひ形琉球の白むくろの葉ホ似て潤ー藤蔓木の如ふありる



槍の柄（え）
漫（そぞ）ろ流（ながし）の物

物ういんの圖

葉莖の物ながく蔓生にて葉の形ついに葉小さし

一種 とふらちあ花まめ

合子草 附錄 さきづる よめがさふ いんのき 江戸

處々田澤道傍小多一春月實より生ず葉ハ旋花ねに似て長く細鬚有り夏月白花を開く細火の辨有り實ハ馬綏兒すゐに似て尖り有り殻を去ハ二子合して有り一子の形ハ苦瓜いぬの實に似り

一種 ふたもたま

此亦西國の海濱小漂着するを拾ひ長莢の中に實有りもたま小似て扁く黒色形芽の痕ありて形神前に垂る鬱口小似り此物栽て亦生ず猿藤より蔓細く葉長大なり又圓葉の物有り

預知子

ホリユリス荷蘭

和産ふー桑西の書物印忙小圖ゟり旋花の類の中ふ木上ふ纏て葉三ツ尖ゟり葉の先細く鬚の如くゟり物ふ纏ふ實ハ木天蓼ノ實ふ似て中ふ三ツの隔ゟり

蘡薁の説小作蔓生依木上葉緑有三角面深背淺七月八月有實作房生青熟深紅色每房有子五七枚如皂莢子斑褐色光潤如飛蛾ゟ云是ゟり

合子草

附録

牽牛子

莘午子　けふたい

ブラーウコロキスケンス、ウインテ　荷蘭蠻語箋

あさゝかに世に多く知物なり尋常の品は葉三尖ありて蔓をなし夏月花を開く莖は茄子に似て小なり旋花に似て大小碧色早農に開き午ふたゝび黒色なるを黒丑と云即黒莘午なり一種白莘午子なり白花のあさかほの子のごとくして色白しおれば白丑なり凡莘午花色一ならず人玩賞して実を栽れば形色百出す

一種　てうじあさかほ

春實を栽葉圓くして尖り何首烏の葉に似たり蔓小疣多し花の莖長く形丁香に似て大なり花は旋花に似て大小白色中心紫色なり實下垂す生なるときは採て鹽藏し亦煮て食す中子白色白花の莘午子と同し故に時珍此物をもて白莘午とするは誤なりてうじあさかほ漢名丁香茄苗　救荒本草

丁香茄苗 救荒本草

旋花　くやひとくさ　和名鈔　ひるがほ　ようづる　越州　へびあさがほ　相州　あめうるさ　仙臺　花の形詩をうる者の次ちやめふに似るゆゑ名づく

一種　八重のひるがほ

處々園圃の中多くあり春月宿根より生ず葉ハ互生す夏月花ひらく形牽午花に似て小く淡紅色あり

一種　ちくさる　讃州

千辨ありを纏枝牡丹と云八種畫譜小圖あり

一種　むかひるがほ

田野ふかく葉長くして大なり花も大なり漢名藤長苗　救荒本草

一種　そまひるがほ

相州七里ヶ濱武州深川邊海濱ふかく春月宿根より生ず葉ハ圓くして一缺あり形素昔つきに似てふたり夏月花あり形旋花と同じ

一種　ぐんぢひるがほ　かくらそ

豆州大島ふかく莖淡紅色ありて甘藷の如く土中ふかく引生ず葉の先四ふかくして軍扇の如く厚し

旋花

一種

藤長苗（救荒本草）

たちひるかほ

一種

そまひるがほ

一種　くそいしろかと

紫蔵　のせう　和名釣

まりゆき　同上　のふせんかつら

庭際小栽藤蔓木上小纏ふ枝幹より鬚根と生じて樹皮ふ粘ず春月鶯莖より葉を生ず紫藤の葉の如くふて短く鋸歯ありて對生し六七月穂をなして花を開く五辨ふして形薔薇ふ似て内紅色外黄色此花の露人の眼ふ入れば目を損ずと云毒あり後二寸許の扁き莢を結ぶ

紫葳
のふぜんかつら

本草圖譜卷之廿七目録

蔓草類

營實（あふち）	のいばら	二
一種	おかんだら	三
一種	ちやだら	四
一種	さつきだら	五
一種	そとやだら	六
一種	きつねだら	七
薔薇（そうび）		
一種	おいそうだら	八
一種	白ちやだら	九
一種	あふさだら	十
一種	わたんだら	十一
一種	木香花（もつこうか）	十二

月季花	ちやうしゆん	九
一種	かうしんはら	十
王瓜	からすうり	十一
一種	ひからず	十五
黄環		十七
一種	月々紅	
栝樓	きからすうり	十二
葛	くず	十四
鐵葛 附録		十六

本草圖譜巻之廿七

東都　岩崎常正　著

蔓草類

2

營實

むばらの實　和名鈔　のいばら

エゲランテールボーム　蘭名

山野に甚多し葉ハ蜀椒葉に似て枝幹に刺あり山に生ずる物の葉ハ尊く毛ありて平野に生する物ハ葉稍大にて薄く艶あり五月に花單瓣白色小く香氣あり此花の露を鍋蒸にて採り外治に用ゆ荷蘭にてワートルはザーと云ふワーテル露なり今ブルガリヤといふハサートの轉語なるべし玫瑰をローズといふハ誤なり時珍の說に南番有薔薇露とハ是なり又此花を採生油に漬日煎するをオーリロザーと云オーリハ油なり實ハ圓にて長し一種數十顆族生す此實濃毒を逐ひ水氣を瀉下し一切魚毒を解しかつ金の酔ふをなさむ妙なり半熟したるを採用ゆ

薔薇（しやうび）のいばら

一種 かくやんばら

天保年中カヤンと云異國へ漂流しなる者その實を携へ來り其實より生したる物なり形状野薔薇に似て蔓に刺多く花白色大にして玫瑰に似たり

一種 かいどうばら

閙々紅 遵生八牋

葉稍大にして花單瓣形玫瑰に似て小く初開の時は白く微紅を帯漸淡紅色後深紅色となる形海棠花に似て香気なし

一種 ごつやばら

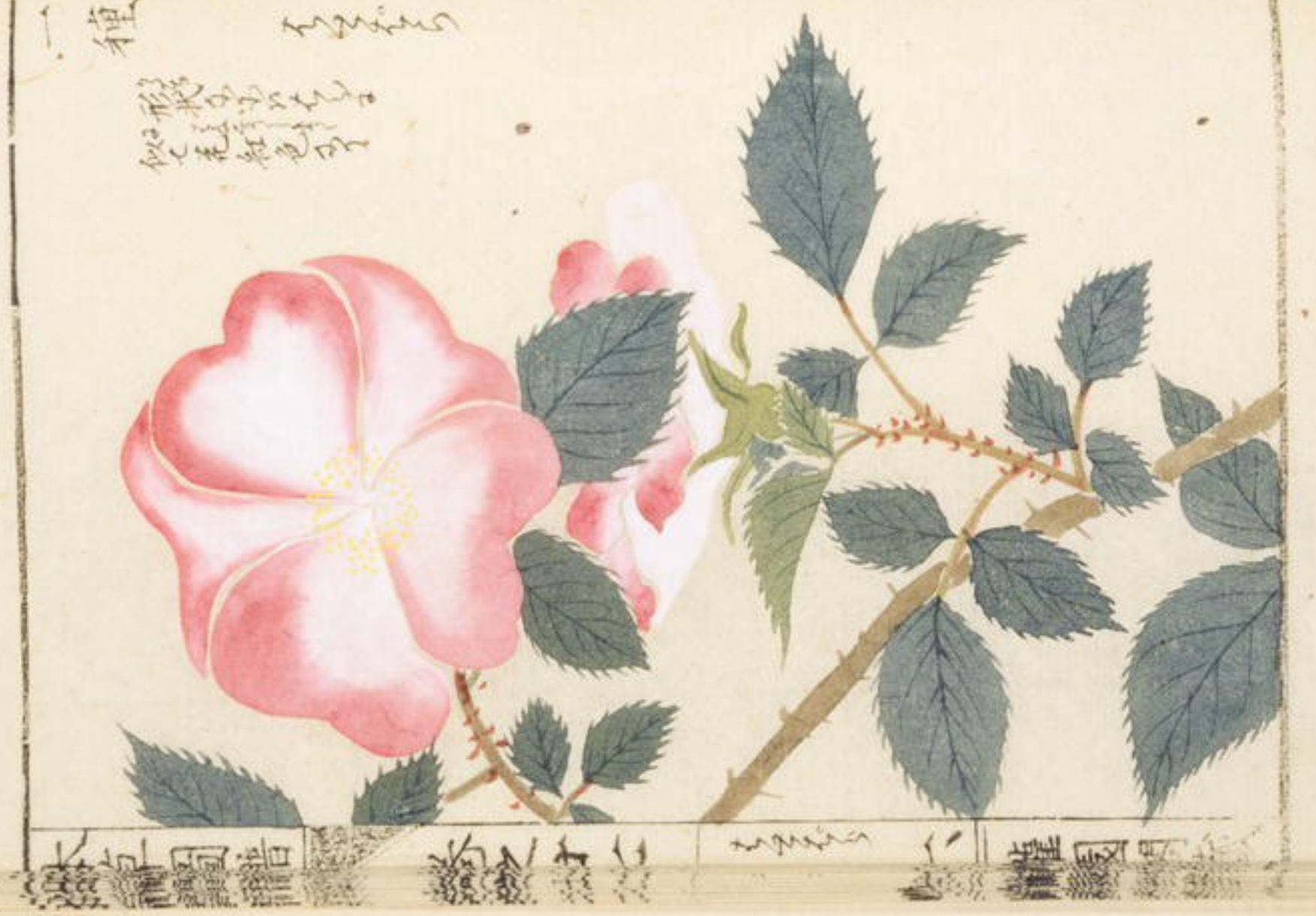
花中輪の千瓣浅淡紅深紅雑る草木繪御覧に出る十姉妹紅紫色と云是なり

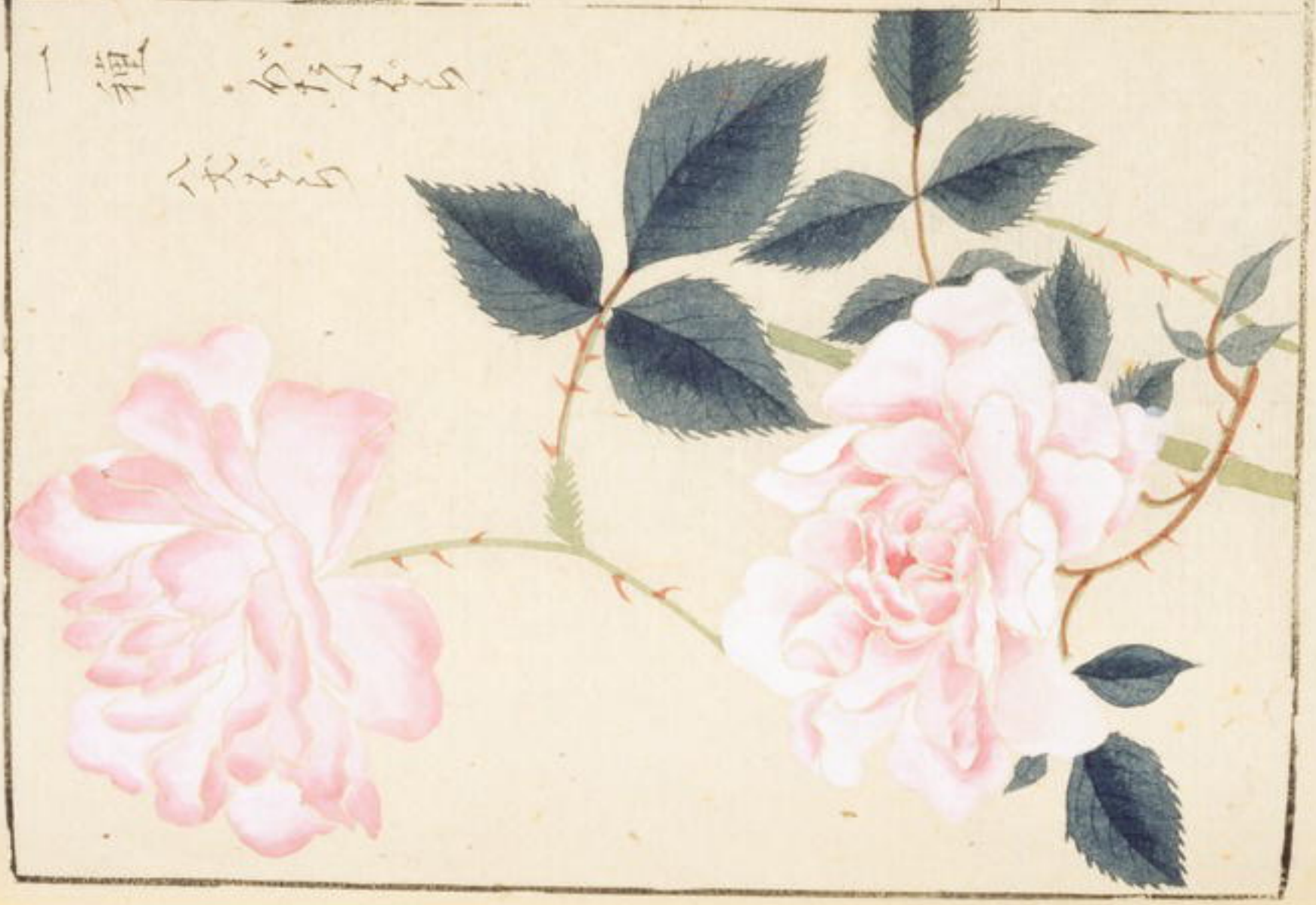
一種 白さうびばら

枝葉野薔薇ノ如ク同シク花大ニシテ千瓣白色ナリ
草木識 白薔薇長條多刺甚香結可植之以架嫩花千葉粉紅如淡薔薇亦名白薔薇

一種 さうびばら

葉大ニシテ野薔薇ノ如ク花單瓣淡紅色ニシテ形櫻花色ノ如シ





一種　木香花　すがれこうじ

漢名一名錦帯兒

木香花

秘傳花鏡

月季花

ちやうしゆん

かうしんばら

庭際に多く栽る木なり
直立し一莖三五葉枝あり
そうびの葉に似て花深紅
色四季に開く又淡紅ものあり
重瓣なり又紅に白の斑なる
もの又白きもの等數種あり。

●重修鎮江府志に月季花
其白者名芽
香又有晩白
晩紅者亦
奇花

一種 げつげつこう 月々紅 名秘

南海麗春 群芳草木識

形状月季花と同し
但し毎月花あり

一種 うけうそうら

形状月季花に同し
花淡紅にして深紅の筋
あり又うけうそうらと云
子形ごくらくなるに似
て棗の月季花に似う

葛 くず まくず

山野に多し春舊藤より葉を生じ一茎三葉形扁豆葉に似て大なり褐色の毛多し葉互生し蔓長さ二三尺木上を纏ひ秋月葉間に穂を出し上に向ひ長さ一尺許り形紫藤花に似て紅色後に莢を結ぶ又白花の物あり其根は小なるは指の如し大なるは合抱に至る上の方瘤多し之を葛脰と云又馬盡頭と名く用ゆれば吐すと云根株より別に蔓を引て土上を延て節間より根を生じ肥大なり根を水飛して葛粉とし他物を雜へざるを上品とし

一種 ひめくず

山野に有り蔓細くして鹿藿の如く葉は葛に似て小く黄褐色毛有小黄花を開く形丈のまゝなるに似たり節の短く四五分熟すれば紅色中子は赤小豆の如くて小く黒色なり根味ひ淡し武州秩父にてはくらすと称し土民根を堀採摺て葛粉の如く水飛して食すと云

葛　くず

ひめうす

鐵葛 所錄

くろづるかつら 江戸

くまやなぎ 日光上野 英明志村

くまかつら 相良

くろかつら 佐州 越後

ちまめかつら

漢名青舍子 條 救荒本草

一名山藤 畫圖通志

山野に生ず藤蔓長さ二丈餘大なるは指の如く莖硬く谷あり切りて轆轤の緑色老すれば黒色鐵の如く堅硬刀斧あて切りて幹自ら二つ三つと云春月葉を生ず胡桃の枝まばらにつくの葉に似て鋸齒あり葉互生一夏月枝の梢ふ穗住あり一小花を開き小子を結ぶ初緑色後紅色熟すれば黒色越後の小兒採り食ふ豆州志ふ云 聖武天皇の御宇尾張女在于あて三野狐を捕へ右の手あて能葛の轆を取て打る其轆の肉つきうと云ふまつくらのやまかつらの一種時生ずれ條蔓長くして物あり是の實大なり

黄環

狼跋子

エリートリナインヂカ 羅甸

コラールボーム 蘭名

獅姑 中山傳信錄

石抱樹 上車頭譜

騎ニ葛ラヤの圖あり數ハ一莖三葉
似て花大ふして紅色
延ブ赤葛ハ似て花大ふして紅色
あり此物蘆蘂の説ふ其花紫色其子谷粮豉子ニ角生似皂莢
入大常者正是黄環子也花實與葛同時とあ是なり字田川榕
すりハコラールボームハ中山傳信錄云擦佑樹高七八尺大者合數圍
大如柳作品字對節生四月初花朱紅色長尺二三寸每幹直抽攢花
數十朶花乗柏紫木筆吐穢高覆穂出大平山といひ又摸象松ハ如車
韻譜ふ所謂古抱樹と同物なり
和産詳ならん物印此み亜黒利加の葛ラ
似て甚大ふ蔓ハ樹の如くみて刺なり花穂ハ